

Volunteer Seminar Journal Vol.12

2017 Spring
ボランティアセミナージャーナル

P2 ●社会を学ぶきっかけとしてのボランティア ●東北大学による学生ボランティア支援	P3 ●サービス・ラーニング科目の開発と提供 ●ボランティア支援学生スタッフ(SCRUM)募集		P4~5 ●SCRUMメンバー紹介	P6~7 ●SCRUM活動紹介		
P8~9 ●岩手活動紹介	P10~11 ●宮城活動紹介①	P12~13 ●宮城活動紹介②	P14~15 ●福島活動紹介	P16~17 ●熊本・岩泉特集	P18~23 ●各団体紹介	P24 ●学生ボランティア支援室 今後のスケジュール



社会を学ぶきっかけとしてのボランティア

キャンパスを飛び出し、まちを知り、人と出会う

ボランティアというと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか？もしかすると「がれき撤去」などの肉体労働を黙々と行うイメージが強いかもしれません。東北大学では、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、様々なボランティア活動の支援を行ってきました。ボランティアの内容は、緊急時の瓦礫撤去などから始まり、徐々に仮設住宅や復興公営住宅でお茶会を開く等のコミュニティ支援や傾聴ボランティア、過疎高齢化地域の魅力発見や地域おこし等に広がっていきました。他にも、貧困家庭の子どもの学習支援やホームレス生活をしている方の支援など、ボランティアには様々なものがあります。また、震災後に明らかになった少子高齢化、過疎化、地域の基幹産業の衰退、原発事故と除染、復興制度や住民自治の課題など、ボランティアを通して見えてくる社会問題は数多くあります。キャンパスから飛び出してボランティア活動を行う中で、まちを知り、人と出会うことは、教室だけでは得られない知識を身につけたり、自分の将来のキャリアを考えるきっかけになります。



6年経った被災地に寄り添いつづける

東日本大震災から6年が経ちましたが、被災地ではまだ多くの方が仮設住宅等での生活を余儀なくされ、高台やかさ上げ地での自宅再建はまだ先になる見通しです。また仮設住宅の統廃合や復興住宅への入居が進む中で、新しいコミュニティの形成も課題になっています。さらに福島第一原発事故の影響で、それまで暮らしていた地域に戻ることができず避難を継続している方や、避難指示が解除される中で新たな暮らしを始める方もいます。ボランティアは減り続け、「震災の風化」が叫ばれていますが、最後まで被災地に寄り添いつづけることはとても大切です。同時に、2016年には熊本地震が起これ、今後も首都直下地震や東南海地震の懸念が強まる中で、東日本大震災の教訓を見直し、生かしていくことが求められています。



東北大学による学生ボランティア支援

東日本大震災学生ボランティア支援室から課外・ボランティア活動支援センターへ

東北大学では、2011年6月より「東日本大震災学生ボランティア支援室」を設置して、災害ボランティアの活性化に努めてきました。2017年4月からは、高度教養教育・学生支援機構内の「課外・ボランティア活動支援センター」にその仕事を引き継ぎ、熊本地震や岩手県岩泉町の水害など東日本大震災以外の緊急時の災害救援ボランティアや、貧困家庭の子ども支援など日常的な地域課題に取り組むボランティア活動を総合的に推進していきます。また、正課内での社会貢献型の体験学習も実施しています。



学生ボランティア支援に関するホームページ

- 東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395
- 東北大学の学生ボランティア支援 <http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/volunteer/01/volunteer0101/>
- 東北大学ボランティア支援学生スタッフSCRUM <https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>

ボランティアフェア

学内・学外のボランティア団体による合同説明会「ボランティアフェア」を開催します。4月は7日間開催します(日程・会場は24頁を参照下さい)。昨年は10数団体が出展し、年間でのべ300名の学生が参加しました。



被災地でのスタディツアー・ボランティアツアーの実施

被災地の現状と課題を学ぶ「スタディツアー」や、実際にボランティア活動を行う「ボランティアツアー」を実施します。2016(平成28)年度は約55回のツアーを岩手県・宮城県・福島県の被災地等で実施し、のべ700人程の学生が参加しています。これらのツアーに定期的に参加して、被災地に貢献する学生も多数います。本誌24ページで、4月～5月はじめに開催するツアーを紹介していますので、ぜひご参加下さい。

情報提供・相談活動

本学学生へのボランティア活動についての情報提供のためボランティアセミナージャーナルを定期的に発行しています。またWebサイトやメール配信サービスでも情報提供を行っています。またボランティア活動に関する相談について、専門のスタッフが対応いたします。川内北キャンパスの教育・学生総合支援センター東棟1階にある「ボランティア活動支援室」までお越し下さい。

被災地や東北を知ってもらうイベントの開催

被災地でのボランティア活動に関する研修会、報告会なども開催します。また国内の他大学の学生や高校生との交流会やツアーも実施します。国際交流として東北大学の留学生と被災地の状況を学ぶツアーや、海外の大学生との交流会なども実施しています。



サービス・ラーニング科目の開発と提供

東日本大震災やボランティア関係の授業

課外・ボランティア活動支援センターでは、被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して地域社会に貢献しながら学ぶサービス・ラーニング科目を開講しています。現場に飛び出して一緒に学びましょう!

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	東日本大震災からみる現代日本社会	藤室玲治、西出優子、江口伶	1S・火1 (医歯歯薬工) 2S・月4 (文系・理農)
基礎ゼミ	ボランティア活動を通して、被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題を知る	藤室玲治	1S・月3・4
	仙台の地域課題を解決するアイデアを考えよう	藤室玲治	1S・木5
	共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント	藤室玲治、江口伶	1S・月5
展開ゼミ	震災をどう伝えるか—震災遺構の保存・活用と、震災の記憶の伝承の課題を学ぶ	藤室玲治	1S・集中
	ボランティア活動を通して、被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題を学ぶ	藤室玲治	2S・4S・木5
	三陸復興の地域課題と日本の未来	藤室玲治	2S・4S・集中
	福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きる人々に寄り添う	藤室玲治、江口伶	2S・集中

「グローバルリーダー育成プログラム」との連携

被災地でのボランティア活動やサービスラーニング科目の受講は「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」のポイントとしても認定されます。詳しくはTGLのサイト (<http://tgl.tohoku.ac.jp/>) をご覧下さい。

ボランティア支援学生スタッフ(SCRUM) 募集

上記のツアーや、各種イベント等の大学主催プログラムは、ボランティア支援学生スタッフ「SCRUM」が参加して企画・運営されています。各団体や被災地の状況を広く学びながら、被災地と学生双方のニーズを踏まえた企画を皆さん自身で実施してみませんか? SCRUMについて詳しくは、次のページをご覧ください!

SCRUM
メンバー紹介

SCRUMってなに?

SCRUMとは、東北大学課外・ボランティア活動支援センターのボランティア支援学生スタッフの愛称です。「被災地の方々と学生とで肩を組んで、復興へ向かっていきたい」という想いから、「SCRUM」という愛称を決めました。私たちは、東北大学生のボランティア活動を推進するために活動していて、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県で活動する「ぼかぼか」、宮城県で活動する「インクストーンズ」、福島県で活動する「福興youth」の学生が主に参加しています。震災から6年を経過した被災地で様々な活動を行いつつ、他団体・他大学の学生と合同でボランティア企画をしたり、海外の学生や留学生と交流したり、東北外で行われるセミナー・シンポジウムに参加したりもします。これからは、東日本大震災以外の学生ボランティアの推進にも取り組んでいきます。

東北大学 課外・ボランティア活動支援センター

ボランティア支援学生スタッフ

SCRUM

ぼかぼか
(岩手)
P8~P9, P19

インクストーンズ
(宮城・石巻)
P12~P13, P18

福興youth
(福島)
P14~P15, P19



代表・渉外担当
文学部 2年
山本 賢

SCRUMには個性溢れるメンバーがおり、メンバー同士とても仲が良かったです。活動も楽しみながら行っています。あなたも一歩前に踏み出して、ボランティアをしてみませんか??



副代表
経済学部 3年
新井 智順

SCRUMは、被災地の人々と密接な関係を築き、ボランティアを通じて失敗成功を重ねて自分の弱点と向き合い改善するきっかけになる、そんな活動ができる場所だと思います。始める動機は皆色々、皆大歓迎です!



副代表・広報担当
工学部
電気情報理工学科 2年
近藤 智哉

ボランティアは真面目じゃないとできないと思いますか。実際ボランティアをしている人たちは、真面目な人・面白い人・変わった人・チャラ男、様々です。大切なのは、思いやりと好奇心です。一緒に楽しもう^^



宮城部門長
理学部 物理学科 2年
小暮 李成

ボランティアはとにかく楽しい! 楽しいから続いています。きっかけは人それぞれだと思います。僕は、見たことのない被災地を見たかったから。想像とは全く違うボランティアの形がありました。今は人とのつながりが楽しみでやっています。



岩手部門長
工学部 建築学科 2年
鈴木 優里

この団体でいろんな人と出会って、話をし、とても充実しています! 私たちの活動が現地の人にとって少しでも楽しい時間になればと思っています。「ボランティアにちょっと興味がある」「人と話すことが好き」そんな皆さんとぜひ一緒に活動したいです!



教育学部 3年
中澤 恵

人が好きで、人と関わることがしくてボランティアを始めました。大学生活、スポーツや音楽に加えてボランティアという選択肢もありですよ~! 迷ったらまずはやってみよう! 愉快的仲間達が待っています(^ ^)



総務担当
文学部 2年
大庭 佳乃

知らなかったことを知ったり、今までにない経験をしたり、いろんな人に出会って、様々なことを感じる事ができる場です。自分なりに考えて、考えを伝えあって、また考えさせられて... 自分の視野が広がっていくようで楽しいですよ! 「ボランティア」と堅苦しく身構えないで、一緒に活動してみませんか?



工学部 建築学科 2年
嶋田 奈桜

私は被災地の現状を知りたくてSCRUMに入りました。そこで多くのことを学び、被災された方のことを考えるようになりました。きっかけは何であれ参加してよかったと思っています。ぜひ一緒に活動してみませんか?



文学部 2年
小針 彩乃

ボランティアの見所といえば、コミュニティが広がること! おじいちゃん、おばあちゃんたちと楽しくお話できるようになるほか、ボランティア同士で仲良くなります!



福島部門長
経済学部 2年
山崎 英彦

「これで休日の生活費が浮くぞ」そんな動機でツアーに参加した私は、いつの間にかSCRUMの虜になっていました。笑 東北が、あなたのもう1つのふるさとになります。さあ、あなたも、おいでよSCRUM!



医学部
保健学科看護学専攻 3年
渡会 紘子

私達は、主にボランティアツアーを企画し、ツアー参加者を募集しています。興味がある方は是非参加してみてください! これから始まる大学生活の刺激になることは間違いないです! 今までの考えが変わるかも??



会計担当
経済学部 2年
坂口 裕紀

講義にサークル、バイト等々、大学は楽しいことがいっぱい! そんな大学生活、一生の友達と出会えるボランティアをしてみませんか? お待ちしています!



工学部 機械知能 3年
AYRIL (ハイリ)

Joining volunteer team like Scrum was a rare experience for me as a International students, but through Scrum, I able to learn a lot of things about many things such as Japan and it's culture, also met with a lot of people. The best thing is enjoying activities together and learning soft-skills for professional purposes.



文学研究科 D2
松原 久

私たち上級生は、勉強会の企画や困ったときのアドバイス役といった形で、SCRUMの活動に関わっています。多様な学年のメンバーがフランクに議論・交流できるというのも、この活動の魅力だと思います。

岩手県

東北大学では2012年より、陸前高田市で学生ボランティア活動を展開しています。主に「陸前高田応援サークルぽかぽか」というサークルが取り組んでいます。ここでは、陸前高田市の状況と、そこの「ぽかぽか」の活動を取り上げます。

陸前高田市の被災状況

陸前高田市の市役所や商業施設が集積していた平野が13mから17m以上の津波に襲われ、1,757名の方が亡くなり、4,000戸以上の家屋が被災しました(平成26年6月30日時点、陸前高田市発表)。

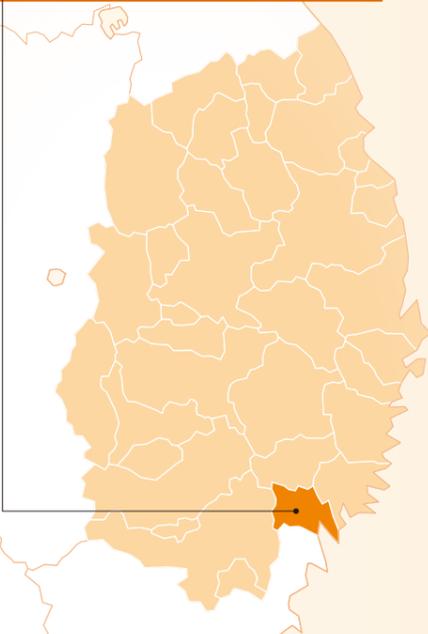
避難場所に指定されていた市民体育館(写真左)や市民会館が全壊。避難していた市民の多くが亡くなりました。また市役所の浸水により、一時的に行政機能が停止状態となりました。

また広田湾沿いには約7万本の松林が2km続く、日本百景にも指定されていた景勝地「高田松原」がありましたが、ほとんどが津波でなぎ倒されました。その中で、一本だけ倒れずに残ったのが「奇跡の一本松」(写真右)です。



死者数(震災関連死含む)	5,134名
行方不明者数	1,122名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	26,077戸

岩手県総務部総合防災室 | 平成29年2月28日現在



復興の現状

陸前高田市には2,168戸の新設仮設住宅、155世帯のみなし仮設住宅があり、2017年3月現在もそこで生活を強いられている人が多いです。災害復興公営住宅は2014年秋から2017年にかけて建設されます。陸前高田市では最大12m、平均で10m超という膨大なかさ上げが行われています。約300ヘクタールに上る土地区画整理事業は被災地最大規模で、6年経った今も住宅再建にはまだまだ時間がかかります。かさ上げ地に住居を希望される一部の方々は、平成31(2019)年度まで仮設住宅で生活しなければならない見込みです。

被災した方々の声



(仮設に)来たときは知り合いが誰もいなくて寂しかったけど、だんだんお隣さんと仲良くなっていったの。でも、去年公営住宅に引っ越しちゃってね。また寂しくなっちゃったわ…
(70代女性 2016年仮設住宅にて)



ここ(復興公営住宅)ではドアを閉めるとひとりきりになってしまう。何とも言えない孤独感がある。男らしくないことを言うけど泣きたくなる。一人だとたまらない思いがする。
(70代男性 2014年公営住宅にて)

東北大学生の取り組み

東北大学「ぽかぽか」は2017年3月までに計44回の「陸前高田ボランティアツアー」を実施し、以下のような活動を行ってきました。

仮設住宅での寄り添い活動

陸前高田市では公営住宅や自立再建した家に移り住む方が増えている一方、あと数年は仮設住宅で暮らさなければならない方もいらっしゃいます。そのような方々に寄り添い、住民同士の集まる場を作るため仮設住宅で足湯や手芸をしながら一緒にお話をしている活動を行っています。



災害公営住宅での支援活動

集合住宅型の災害公営住宅では、今まで生活してきた戸建ての住宅や仮設住宅に比べて、階の異なる人とは接する機会がなく、気軽に近所の人と話せないという声があります。そこで私たちはその様な方々が集まってお話ができる場を作ろうと災害公営住宅でも足湯・手芸カフェと一緒に料理を作って食べる活動を行っています。



地域活動の支援

陸前高田市の伝統行事である「動く七夕」「虎舞」は準備や練習のために年齢性別を問わず多くの住民が集まりコミュニティ形成に大きい役割を持っています。しかし震災後、人口減少・少子高齢化・資金・場所などの問題により開催が危ぶまれています。そこで、私たちは高田町和野地区の活動に参加し、伝統行事存続のためのお手伝いをしています。



ぽかぽかメンバーの声

2016年の春からボランティアに行き始めて、ぽかぽかのメンバーとなつてからは、行ける時は月に1回程度、陸前高田で活動しています。陸前高田に行って聞いたお話の中に次のような言葉があります。「がれきの山は機械でしかできないかもしれないけど、田んぼの中のガラスは人の手でしか拾えない」。この言葉には、私たち学生ボランティアだからこそできる、被災された方の心に寄り添い、細かい部分に対する支援の必要性を感じます。

「ぽかぽか」は、お話をうかがうだけではなく、子どもと遊んだり仮設住宅の掃除を手伝ったりと活動の幅が広いのも特徴です。一本松や震災遺構などを視察して津波の被害を知るという時間もあります。学部学年問わず、ボランティアが初めてという方の参加もお待ちしております! 皆さんも、地震から6年が経過した「陸前高田」の「今」に寄り添ってみませんか? (工学部 2年 佐藤美樹)



宮城県

豊かな漁港と農地を有する宮城県。

震災時、北部では20mを超える津波が押し寄せ、南三陸町、女川町などの市街地は壊滅的な被害に見舞われました。県南の平野部では、仙台東部道路・常磐自動車道・国道6号線沿いまで津波が押し寄せ、広大な農地・港湾施設等が被害を受けました。

宮城県では現在でも13,762名が応急仮設住宅（入居率38.7%）で、9,983名が民間アパート等を借り上げた「みなし仮設住宅」で生活しています（宮城県発表、平成28年12月31日現在）。

死者数(震災関連死含む)	10,558名
行方不明者数	1,232名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	238,130戸

宮城県危機対策課 平成29年2月28日現在

復興とボランティア 6年間のあゆみ

震災から6年、大学生によりあるいは社会人により様々なボランティア活動が行われました。役割を終えた活動もあれば、今だからこそ必要になる活動もあります。宮城県内で東北大学生ボランティアが支援に入ってきた地域をいくつかとりあげ、ここでの活動を紹介します。

仙台市

大津波では仙台市の農地の40%が冠水。行政とボランティアの力により瓦礫撤去と農地再生が行われました。震災から6年経ち、農業を再開できる状態になったものの、人口流出による過疎化、高齢化といった問題に直面しています。そのために、沿岸部の若林区や宮城野区では、住民の安定した生活、問題解決へ向けた話し合いが必要となってきます。

震災復興・地域支援サークルReRootsは2011年より仙台市若林区で農地の瓦礫撤去に着手。現在は野菜栽培、農家の方が作ったお野菜の直売所の運営、被災地の稲わらを使った「わらアート」展示などといった地域外から人を呼び込むイベントの企画、地域の話し合いの場への参加など、多方面から若林区の復興に向けた活動を行っています。同時に、市民農園の運営や畑作業をするツーリズムを通し、農村の魅力を発信しています。今年度からは荒井東地区の復興公営住宅で、コミュニティの形成を主な目的とした「食のサロン」を実施。住民の方々と芋煮を作りしました。

仙台市内ではその他に、「アスイク」や「キッズドア」など様々な団体が学習支援・居場所づくりを行っています。被災で勉強が遅れてしまった子どもの支援がきっかけでしたが、現在は貧困など様々な理由で支援が必要な子どもたちへ対象を広げ、活動を展開しています。

なお2016年度からは、太白区あすと長町地区の災害公営住宅において、基礎ゼミ・展開ゼミ継続サークル「たなぼた」による活動もスタートしました。この住宅では、各地から多様な人が入居していることから、顔見知り関係の創出を目的として、カフェ活動の企画・参加を行っています。



2016年11月ReRoots「食のサロン」の様子

山元町



2016年10月ハロウィンイベントで仮装する子ども達

山元町は宮城県の県南に位置し、イチゴやほっき貝などが名産として知られています。東日本大震災では約2,500世帯が水没し、イチゴ農家なども甚大な被害を受けました。山元町には、東北大学地域復興プロジェクト「HARU」が、まだ大学が再開していない2011年4月の間、1日あたり約40名（延べ1,000名）のボランティアを派遣し、炊き出しや民家の泥かき、避難所の手伝いなどを行いました。その後は被災したイチゴ農家のお手伝いや、仮設住宅で住民の方の交流の場づくりや対話を目的とした足湯の活動を行いました。現在は災害公営住宅での活動として、自治会主催のクリスマス会やハロウィンイベント、夏祭りのお手伝いや企画提案などを行っています。

多賀城市

震災で大きな被害を受けた多賀城市では、港に7m、市内でも2~4mの津波が押し寄せ、市内の約34%が浸水しました。平成28年12月に市内の災害公営住宅は全戸完成し、全部で532戸が市内に整備されています。「復興応援団」では災害公営住宅でのイベントのお手伝いや、仮設住宅への1か月に1回の「復興応援団だより」の配布を通じて地元の方と関わり、普段の生活の楽しみや外出機会を増やす活動を行っています。

南三陸町

壊滅的な被害を受けた志津川地区にある防災庁舎、震災遺構として保存するかどうか議論されていましたが、宮城県が管理して2031年まで一時保存の方針となりました。また、「復興応援団」は、東北大生も参加し、南三陸町の農業・漁業を応援するツアーを開催。他県の高中生や、東京などからのリピーターを多数呼び込み、地域の課題と魅力を伝えています。

石巻市での活動

石巻市は宮城県第二の都市で、水産業やマンガの街として知られております。震災では市内の約13%が浸水し、基礎自治体の中では最も大きな被害を受けた地域のため、6年経った現在でも多くの方が仮設住宅での生活を強いられています。東北大学地域復興プロジェクト「HARU」は、仮設住宅での子どもたちの学習支援や遊び場を提供する教育支援活動を行ってきました。2015年夏からはこの活動を発展させて、石巻市の自立を後押しする目的で「石巻あそびプロジェクト」を発足し、外からみた石巻の魅力を発見し、自立に生かすために何が出来るかを探索する活動を行っています。住民の方からのニーズを受け、住民の交流の場として料理教室を開催するなど、自立的な地域復興を後押しするための企画提案を行っています。



HARUの活動の様子

なお2016年度からは、新蛇田地区の災害公営住宅において、基礎ゼミ・展開ゼミ継続サークル「たなぼた」による活動もスタートしました。新蛇田地区は、最終的に1200世帯が住む「新しいまち」であり、コミュニティ形成の支援として、夏祭りやカフェ活動、まちづくりワークショップなどを企画・参加しました。

その他に石巻市では「TEDIC」が学習支援事業、不登校状態にある子どもたちに対するのフリースクール事業等を行っています。また「ピースポートセンターいしのまき」では、石巻市の牡鹿半島等で、一週間漁師さんのお宅にホームステイ（または漁村の地域施設に宿泊）しながら漁業のお手伝いをする漁村留学「イマ、ココプロジェクト。」に取り組んでいます。

東松島市

東松島市では農地を含む広い範囲が津波の被害を受けました。現在は、高台への移転によって復興が進められており、大きな被害を受けた野蒜地区の北部丘陵では、平成28年5月28日から移転者の方へ宅地の引渡しが始まっています。

学生団体の「みまもり隊」は2011年から東松島の農家の支援に着手、現在の活動のメインは、地元の方々とともに「東松島地野菜プロジェクト」です。東松島ならではの野菜を生み出すことで、人が戻ってこられる場所を作ろうとしています。他には、地域のお祭りに出店したり、イベントの手伝いを通して地元の方と関わり、ともに楽しみながら活動しています。



2016年11月みまもり隊の農作業

宮城県 石巻市



死者数(震災関連死含む)	3,552名
行方不明者数	425名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	33,087戸

宮城県震災復興政策課 平成29年1月31日現在



東北大学インクストーンズは、石巻市を中心に活動するボランティア団体です。主に2つの活動の企画・運営をしています。1つは、仮設住宅や公営住宅を定期的に訪問し、足湯カフェ活動、手芸、お茶会を通してコミュニティ支援するものです。もう1つは、限界集落の地域起こしのお手伝いです。いずれの活動も地域によりそいニーズを拾って活動しています。

石巻市の特徴

笹かまぼこ、石巻やきそば、ほや、国内シェア一位をほこる雄勝硯などが特産品の地域です。宮城県では第二位の人口を擁する市で、石ノ森萬画館があり、漫画の街としても有名です。石巻市に近接する金華山沖漁場は、世界三大漁場の一つであり、豊富な漁業資源を有しています。



被害状況

東日本大震災によって石巻市では、中心部(旧石巻市)だけでなく、半島部(旧北上町、旧河北町、雄勝町、牡鹿町)にも大きな被害がありました。

私たちの活動の始点となった雄勝町では、震災前の高齢化率は40%を超えていました。震災前からあった過疎化の問題に、津波被害が追い打ちをかけ、被害の甚大さにくわえて、避難所環境の劣悪さ、仮設住宅の不足などもあり、雄勝町外へ避難する住民が多数にのぼりました。その結果、国内シェア一位を誇る雄勝硯、主要産業である漁業にも大きな影響が出てしまいました。

雄勝町に限らず、居住が困難となった人には仮設住宅の建設や見なし仮設の提供といった対処が取られましたが、住み心地の悪さや古くからのコミュニティの崩壊等、様々な問題が生まれてしまいました。

復興状況

震災から約6年が経とうとしている現在でも、多くの仮設住宅が残っており、建設途中の復興公営住宅も存在します。また、被災地に残るか否かの決断を迫られる人、被災地に残ると決めた上で人口問題や復興を進めるために具体的にどうすれば良いかに関して悩んでいる人等、震災の爪痕は色濃く残っています。

被災地の声



行政は、復興が器をつくることだと考えている。しかし、本当の意味での復興は中身のことも考えなければならない。(20代男性)



仮設住宅に住む人が少なくなっていく中で、そこでの自治組織の運営が難しくなっている。仮設住宅から出ても、自治会長として仮設住宅に通っている人もいます。(60代男性)

インクストーンズの取り組み

名振

雄勝町名振地区は、震災前からの過疎化と、津波被害の甚大さもあわせて、住み続ける方々の少なさ・高齢化が深刻な場所です。ここで私たちは、祭りの支援や漁業体験の活動を行っています。

名振の「おめつき祭り」は、江戸時代から続く地域のシンボルであり、「祭りを存続したい」という住民の方々の熱い思いに応えるため、毎年参加してきました。また漁業は、暮らしの根幹かつ魅力を形成しているものであり、「暮らしの魅力を(若者に)知ってほしい」という思いを受けて、体験活動を行ってきました。



波板

石巻市雄勝町にある波板地区は総戸数10戸、高齢化率ほぼ100%の「限界集落」です。しかし波板の住民の方々は波板を多くの人の記憶に残し、波板には住まないけれども「住民」とよべる存在を増やすために、海、山、そして玄昌石と溢れる自然を使って日々様々な努力をされています。

私たちは竹を刈ったり加工して使う石を拾ったり、夏には海水浴場の運営を手伝ったりと、波板地区に寄り添い、その時その時のニーズに合わせた活動をしています。



コミュニティ支援

震災から6年が経つ中で、仮設住宅ではコミュニティが狭くなったことで生じる人間関係の問題、復興公営住宅では異なる仮設住宅から人が集まるため新しいコミュニティの獲得の問題など、それぞれに課題が生じています。

私たちは足湯カフェやお茶会・ハンドクラフトを通じた「傾聴活動」に加え、新しい取り組みとして被災地の方々と一緒に料理をしたり、キャンドルを作ったりと様々なことを自分たちで考え、アクティブな活動を行っています。このように人々が集まる機会を創造し、コミュニティ形成の場を提供・支援することで課題解決の一助となることを目指しています。



インクストーンズメンバーの声

私はインクストーンズに所属して1年が経ちました。これらの活動をしてきて思うのは、実際にその場所に足を運んで、その住民の方と交流してみないと分からないことがあるということです。言葉やメディアには限界があります。その土地の空気や雰囲気は、訪れてこそ感じることができるものです。皆さんも是非、一緒に活動して足を運んでみましょう。☺️インクストーンズ一同、歓迎です。(医学部保健学科3年・渡会紘子)



死者数(震災関連死含む)	3,959名
行方不明者数	3名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	19,563戸

福島県災害対策本部 平成29年3月6日現在

福島県の被災の特徴

福島県は、東日本大震災時、地震、津波により甚大な被害を受けた上、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線汚染により未曾有の被害を受けました。

平成23年3月11日14時46分発生の本震では、福島県の浜通り・中通り地方が震度6強～6弱の激しい揺れに見舞われ、この揺れに伴う大津波が浜通り地方全域の沿岸を襲いました。場所により異なりますが、浜通りでの津波の高さは7～15mだったとされています。この地震・津波の直接的な被害による死者数は、明確に死亡が確認できるご遺体が見つかっていない数も含めると、1,828人にのぼります(平成29年2月20日福島県災害対策本部発表資料)。

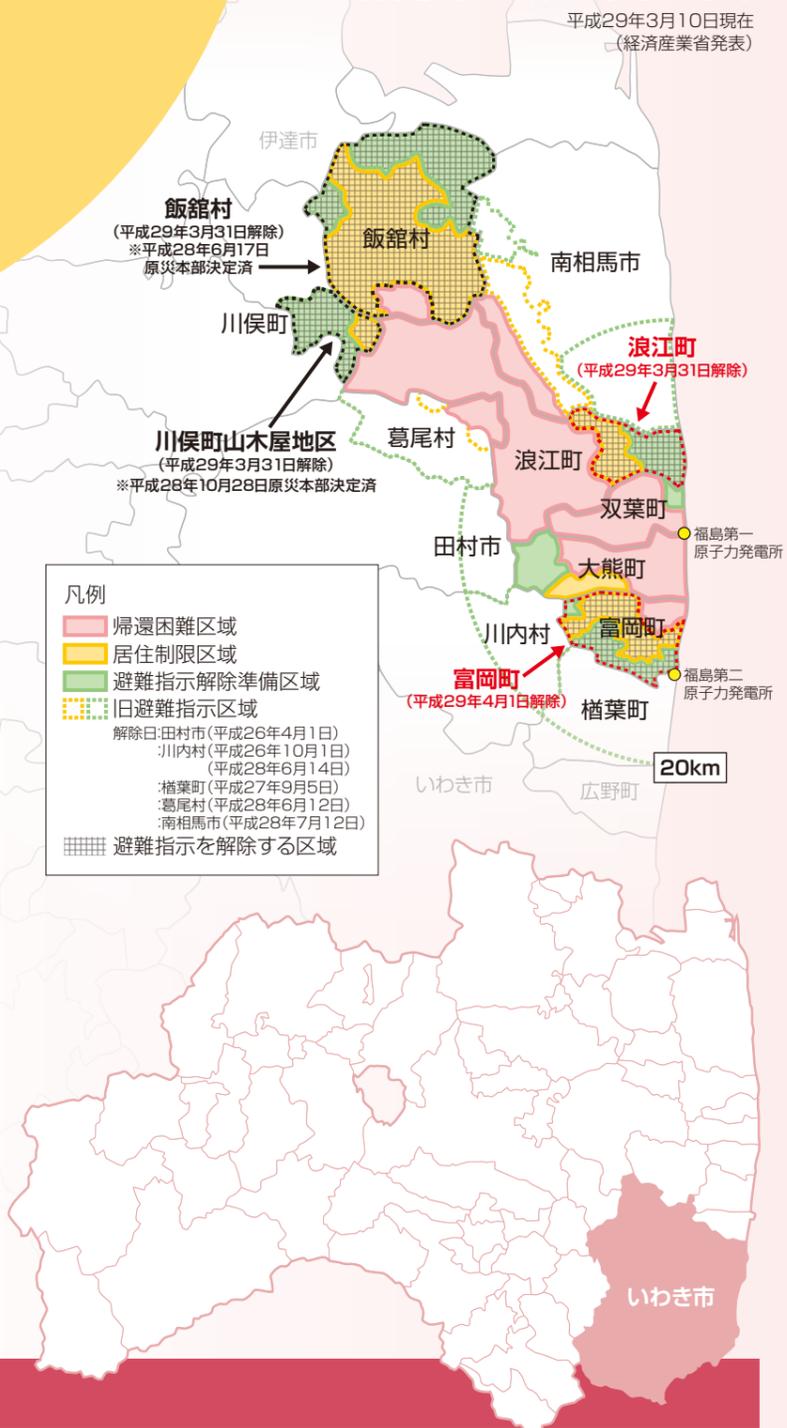
第一原発の周辺地域は現在も避難指示区域に指定され、79,446人が、震災から6年経った今でも避難生活を余儀なくされています(平成29年2月20日福島県災害対策本部発表資料)。また、福島県全体の震災関連死(震災の直接的被害ではなく疲労や環境悪化などの間接的な原因で死亡する)の死者数は2,129人にのぼり、他県と比較しても突出して多くなっています(平成29年2月20日福島県災害対策本部発表資料)。これは長引く避難生活のストレスに起因していると考えられます。

川内村、楡葉町のように、一部避難指示が解除され帰還が始まった地域もありますが、これもインフラ整備や若い世代の不在、住民間の意識の差など様々な問題があり、一概に良かったと喜ぶことはできない現状があります。震災から6年経った今、福島の抱える問題は、ますます多様な姿を見えています。

いわき市の現状

いわき市では、震災により都市部に人口が流入したことで沿岸部や山間部の過疎高齢化に拍車がかかったこと、他地域同様公営住宅等でのコミュニティ形成がうまくいっていないことが課題です。またいわき市は、原発事故による避難者を受け入れています。東京電力からの賠償金の有無などにより津波被災者と原発被災者の間で軋轢が生じています。両者のわだかまりを解消し、お互いが震災を乗り越え共存していく方法を見つけることが大きなテーマとなっています。

避難指示区域の概念図



東北大学福興youthの取り組み

薄磯での活動

いわき市薄磯地区の震災前からの基幹産業は水産加工業であり、特にかまぼこ生産が盛んで、薄磯海岸には毎年30万人もの海水浴客が訪れるなど、観光面でも賑わいを見せていました。震災被害は特に甚大であり約8.5mの津波が押し寄せ、市の死者数の1/3を占めます。現在は、復興協議委員会・区会を中心に復興まちづくりを進めています。私達は、復興公営住宅での足湯・手芸カフェ活動や地域行事への参加、立教大生との合同企画等を開催し、住民との交流を深めています。



永崎・下神白団地での活動

災害公営住宅永崎団地と復興公営住宅下神白団地は道路1本を挟んで隣接しています。永崎団地は市内で被災された方、下神白団地は原発事故で避難されている方が入居しています。両団地間には東京電力からの賠償金の有無などから違いがあり、今後どう共生していくかが課題となっています。

私たちは2016年から永崎団地集会所で足湯・カフェ活動を行い、うち2回は下神白団地住民も合同でクリスマスパーティーなどを行いました。



富岡町

福島県富岡町は、町の全域が福島第一原発から半径20km圏内に含まれており、避難指示区域に指定されています(平成29年4月に一部解除予定)。福興youthでは、富岡町の方々が避難されているいわき市泉玉露仮設住宅にて、2014年度よりイベントを開催したり清掃活動を行ったりしています。また、2016年に地元のNPO法人と協同で、4月からの帰還開始を見据えて意見交換を行うワークショップを行いました。



いわき市

泉玉露仮設住宅 ●薄磯 ●永崎・下神白団地

福島の今を知るスタディツアー

震災から6年。あの日以来、福島をめぐる報道は人々の注目を集めてきました。今でも、避難指示解除、原発の廃炉作業の問題など、日々新たな問題が浮かび上がっています。

—あなたは、福島について“知ったつもり”になっていませんか?—

福興youthでは、東北大生に福島県の現状について理解してもらうことを目的として、スタディツアーを行っています。中でも8月に行ったツアーでは、東京電力福島復興本社や富岡町社会福祉協議会、県内の障がい者団体など様々な立場の方にお話を伺い、多面的な見方で理解を深める大変貴重な機会となりました。

ぜひ、私たちと一緒に“福島の今の声”に耳を傾けてみてください。



福興youthメンバーの声

私は高校の時に被災地を訪れ、実際に被害を目の当たりにしたことで自分にもできることはないかと思い、ボランティアを始めました。私自身、活動前はボランティアというと炊き出しや瓦礫撤去などのイメージがありましたが、約6年経った現在で必要とされるのは住民の方のお話を聞き交流する・福島魅力を発信していくといったソフト面の支援となっていることを学びました。また、ボランティア活動は自分自身を成長させる良い経験となると思います。初めての方も是非参加してみてください!(農学部2年 齋藤有美)



熊本県

死者数(震災関連死含む)	208名
重軽傷者数	2,675名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	42,105戸

内閣府非常災害対策本部 平成29年3月14日現在



熊本県の被災の特徴

平成28年熊本地震では4月14日に前震(M6.4)・4月16日に本震(M7.1)が起こり、熊本県益城町や西原村・南阿蘇村を中心に大きな被害が出ました。被災の特徴としては、同一地点(益城町)で短期間に2回震度7を観測したこと、震源が浅いため被害が局地的であること、倒壊した家屋が多かったことが挙げられます。平成28年4月17日の段階で855か所の避難所が開設され、183,882名が避難しました。余震が長く続き、建物崩壊への不安から、避難所ではなく自動車内などで生活する被災者の方も多く、ストレスのかかる避難生活を余儀なくされました。

11月にすべての避難所が閉鎖。家をなくされた被災者の方々の多くは仮設住宅へ入居しました。しかし必ずしも既存のコミュニティを継続する形ではなく、様々な地区の方が入居された仮設住宅も多いために、十分なコミュニティはできていません。

できるだけ地域に顔見知りを増やし、コミュニケーションを促す。コミュニティ形成は東日本大震災の被災地でも課題になっているので、今までのボランティア活動で培ったノウハウを生かすことが望めます。東北大学は熊本大学等の学生たちと連携し、熊本市、御船町、益城町を中心に活動しました。

東北大学生の取り組み

ハード面の支援活動

がれき撤去や被災宅での片付けの手伝いなどを行ってきました。このような活動は東日本大震災から6年がたった東北では普段することがありません。被災直後の状況や空気感を知ることができ、今後東北の被災地で活動するうえでも貴重な経験になりました。

また、こうした活動中も現地の方とコミュニケーションを取り、相手のニーズを探ることが大切であると実感しました。

ソフト面の支援

ソフト面の支援としては、足湯や折り紙などの手芸をしながらお話を伺う傾聴活動や、子どもたちと水遊びをしながら交流する活動を行ってきました。

ストレスのたまる避難生活。大人の方は会話を通して、子どもは遊びを通して、少しでもその辛さや悩みを和らげることができたのではないかと思います。

活動記録

	実施時期	主な活動内容	参加者数
第1次派遣	2016年 5月2日～9日	がれき撤去の活動、 足湯ボランティア	学生3名、 教員1名
第2次派遣	2016年 6月3日～5日	被災宅の片づけの お手伝い、 足湯ボランティア	学生4名、 教員1名
第3次派遣	2016年 8月4日～7日	避難所の子どもたちと 遊ぶイベント、 足湯ボランティア	学生2名、 教員2名
第4次派遣	2016年 9月2日～10日	足湯・折り紙ボランティア、 現地大学生との 交流・意見交換	学生6名、 教員1名
第5次派遣	2016年 11月18日～20日	足湯・折り紙ボランティア	学生4名、 教員1名
第6次派遣	2017年 2月20日～24日	足湯・折り紙ボランティア、 現地大学生との 交流・意見交換	学生4名、 教員1名

熊本の学生との連携

熊本県へのボランティア派遣には、足湯や手芸など、東日本大震災被災地で培ったノウハウを、熊本大学の熊助組をはじめとする現地の学生ボランティアに伝えるという目的がありました。熊本で活動と一緒にいたり、熊本大生を東北に招いて交流したりしてきました。逆にハード系の活動について教えてもらうなど、学生同士でこれまでの経験を伝え合う良い機会になっています。



熊本大学
熊助組

発災直後の活動
(ハード系活動)の
ノウハウを持つ



東北大学
スクラム

移行期支援の活動
(ソフト系活動)の
ノウハウを持つ



参加学生の声

震災直後の被災者の状態は知らなかったで、そのような過程を経て現在支援している仮設住宅のような状況になっているということ知ることが大切だと思う。(東北大生)

4ヶ月間にわたる避難生活をされている方の声をうかがえてよかった。(東北大生)

ボランティアとは何かを考えるきっかけになった。(熊本大生)

「足湯っていいなあ」というのが今回一番感じたことです。「足も体も心もケアしてくれてありがとう」という住民の言葉にすべて表れていると思います。(熊本大生)

岩手県 岩泉町

被害状況

平成28年8月30日、岩手県を台風10号が直撃、岩泉町を中心に大きな被害を出しました。課題になったのが、交通の便の悪さなどによるボランティアの不足。1階が床上浸水し、2階で生活されているという高齢の方々も多く、復旧が進まないことによる疲れやストレスへのケアの対応不足なども、顕著にみられました。

東北大学の活動

東北大学では9月から10月にわたり計3回、岩泉町中里地区にボランティア派遣を行い、家屋の泥出しなどの作業を行いました。住民の方からは「自分の家も水に漬かったが、片付けにぜんぜん手が付けられ無い。疲れた」などの声が聞かれました。

死者数	20名
行方不明者数	1名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	575戸

岩泉町政策推進課 平成29年1月31日現在





学生

ボランティア団体の紹介

9団体

※掲載はアイエオ順です

東北大学生による学生ボランティア団体を紹介します。活動に参加してみたい団体や興味をもった団体があれば、4月のボランティアフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

1 AsOne

代表: 高野 紗季(理学部3年)

私たちは国際ボランティア団体AsOneという団体で、Habitat for Humanity Japanという国際NGO団体の学生支部の1つです。AsOneは東北支援と海外支援を中心に活動しています。東北支援では、女川の「ゆめハウス」を中心に支援しているほか、被災地でのイベントのお手伝いなどを行っています。海外支援では、長期休みを利用して貧困地域に行き実際に家を建て、住居・コミュニティ支援をしています。とてもアットホームな雰囲気の中、活動しています！興味がある方は気軽に連絡ください！



E-mail: tohoku.asone2013@gmail.com
Twitter: [@tohoku_asone](https://twitter.com/tohoku_asone)

2 東北大学 インクストーンズ

代表: 小暮 李成(理学部2年)

インクストーンズは、石巻市を中心に活動するボランティア団体です。主に2つの活動の企画・運営をしています。1つは、仮設住宅や復興公営住宅を定期的に訪問し、足湯やキャンドルづくりを通して新たなコミュニティをデザインすること。もう1つは、限界集落の地域おこしのお手伝いです。美しい海と山に囲まれているものの、過疎化が進んだ石巻市波板地区を拠点に、海水浴場の運営のサポートや、鹿よけの柵作りなどを行っています。仙台では味わうことができないような非日常を体験することができます。いずれの活動も、地域によりそい、住民の方々のニーズを拾いながら活動しています。あなたも大好きになれる地域との出会いを見つけてみませんか？ご参加お待ちしております！



HP: inkstones.info E-mail: tohoku.inkstones@gmail.com
Twitter: [@inkstones_vol](https://twitter.com/inkstones_vol) Facebook: [@tohoku.vol.inkstones](https://www.facebook.com/tohoku.vol.inkstones)

3 こども☆ひかりプロジェクト

学生代表: 佐藤 萌(農学部4年)

主な活動内容は、東北を中心とした博物館や水族館などのミュージアムでフェスティバルを開催することです。全国から集まった学芸員の方々と協力して、こども向けのワークショップを実施しています。他にもワークショップ情報が満載のフリーペーパー「ミュージアムキッズ」の執筆や、多くの学生や社会人が集まる研究会でのプレゼンなども行っています。私たちと共に、こどもが笑顔になる素敵な瞬間に立ち会ってみたい方は、ぜひ説明会に参加してください。



E-mail: kodomo.hikari1206@gmail.com TEL: 090-9119-2005 HP: <https://www.kodomohikari.com/>
Facebook: <https://ja-jp.facebook.com/kodomohikariyouth/>

4 基礎ゼミ・展開ゼミ継続サークル たなぼた

代表: 武田 萌(農学部2年)

できたてほやほやサークルこと、「たなぼた」です！基礎ゼミ終了後もボランティア活動をしたい！というメンバー13人が集まってできたサークルです。活動場所は、仙台市あすと長町・石巻市のぞみ野の復興公営住宅、名取市愛島の仮設住宅がメイン。活動内容は、足湯・折り紙やキャンドル作りなどの手芸、まちづくりワークショップのお手伝い、他にもお祭りの企画や餅つき、門松作りなど！「他にも気になるサークルが…」「バイトもしたい！」「勉強と両立できるの…？」と悩んでいるあなた、たなぼたなら大丈夫です。行きたい時に行くことができ、空いている時に活動に参加できます。Twitter等のSNSでも情報をゆると提供しています。ぜひご覧ください♪



E-mail: tanabotatohoku6@gmail.com Twitter: [@tanabota_tohoku](https://twitter.com/tanabota_tohoku)

5 東北大学地域復興プロジェクト "HARU"

代表: 小瀨 奈月(工学研究科化学工学専攻 修士1年)

東日本大震災からの復興支援・地域再生を目的とした大学公認のボランティア団体です。これまで地域の状況に合わせて、仮設住宅での活動や農家のお手伝いなど様々な活動を行ってまいりました。現在は石巻市・山元町にて仮設住宅での料理教室等の企画や、復興公営住宅でのイベントの企画やお手伝いなどを行っております。今後も復興の進む地域の状況に柔軟に対応し、自立的な復興を後押しするような活動を行ってまいります。



E-mail: koho@haru-tohoku.org HP: <http://www.harutohoku.org> Blog: <http://tohokugakuseifukko.blogspot.jp/>
Twitter: [@haru_tohoku](https://twitter.com/haru_tohoku) Facebook: <https://www.facebook.com/haru.tohoku/>

6 東北大学 福興youth

代表: 山崎 英彦(経済学部2年)

東北大学福興youthは、主に福島県いわき市を拠点として活動しています。震災や原発事故が引き起こした様々な問題について実際に現地へ行きお話を聞くスタディツアーを企画運営したり、公営住宅でのコミュニティづくりや被災者一人一人の心のケアなどを目的とした足湯カフェ活動、地域行事への参加を通じた町おこしの手伝いなどのボランティアツアーを行うことで、一般学生を被災地に呼び込んでいます。



E-mail: chuoline201t32@hotmail.co.jp HP: <http://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>
Twitter: [@fukko_youth](https://twitter.com/fukko_youth) Facebook: <https://www.facebook.com/profile.php?id=1898608167050984>

7 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

代表: 鈴木 優里(工学部2年)

岩手県陸前高田市で活動を行っています。一般学生を交えたボランティアツアーを月に1回のペースで実施しています。仮設住宅・災害公営住宅での足湯・手芸カフェの活動や子どもの居場所づくりとして学習・遊びの支援の活動を主に行っています。また、地域の要望に応じて陸前高田市の伝統行事の「動く七夕」「虎舞」のお手伝い、まちづくりワークショップの実施も行っています。「ボランティアってハードル高いな…」と思っている方もちょっと勇気を出して参加してみてください！



E-mail: tohoku.poca2@gmail.com Blog: <http://ameblo.jp/poca-2/>
Twitter: [@poca_2](https://twitter.com/poca_2) Facebook: [@tohoku.poca2](https://www.facebook.com/tohoku.poca2)

8 学生による地域支援活動団体 みまもり隊

2011年6月、震災復興の団体として結成されました。私たちは震災で津波の被害を受けた宮城県東松島市を元気あふれるまちにすることを目的に活動しています。活動のメインは、地元の方々と共に行う「東松島野菜プロジェクト」です。東松島ならではの野菜を生み出すことで、人が戻って来られる場所を創ろうとしています。他には、地域のお祭りに出店させていただいたり、イベントのお手伝いを通して地元の方と関わり、少しでも笑顔になってもらえるよう日々活動を行っています。



HP:<http://mimamori311.wixsite.com/mimamoritai> E-mail:mimamori.311@gmail.com

9 震災復興・地域支援サークル ReRoots

代表: 村上 敦哉(文学部人文社会学科2年)

ReRootsは「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」のコンセプトのもとで、東日本大震災で被害を受けた仙台市若林区で復興に向けた支援を行っている、仙台近郊の大学生が活動するサークルです。若林区は農村地帯。その魅力を生かして、農家さんの野菜の移動販売や稲わらを使ったわらアート制作などを行っています。活動の際には、日々変わっていく被災地の現状を分析し、住民の立場に立ちながら長期的な展望を見据えることを心掛けています。一緒に住民の方と地域を盛り上げてみませんか？



E-mail:reroots311@yahoo.co.jp HP:<http://reroots.nomaki.jp> Blog:<http://reroots.blog.shinobi.jp/>
Twitter:[@ReRoots311](https://twitter.com/ReRoots311) / [@ReRoots_newface](https://twitter.com/ReRoots_newface) Facebook:<https://www.facebook.com/ReRoots311>

学外 のボランティア団体の紹介

12団体

※掲載はアイウエオ順です

東北大学生が参加している学外ボランティア団体を紹介します。活動に参加してみたい団体や興味をもった団体があれば、4月のボランティアフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

1 特定非営利活動法人 アスイク

代表: 大橋 雄介

自主事業としてフリースクールの運営、また、経済的な困難を抱えた中学生に対する放課後学習サポートを各行政と連携して仙台市内20ヶ所・岩沼市・白石市・塩竈市などで行っています。私たちはただ一緒に勉強をするだけでなく、お互いの学校の話や趣味の話などを通して子どもと信頼関係を築き、子どもたちにとってのよき理解者、相談相手となることも大切だと考えています。現在活動しているサポーターたちは、「教えてあげる」ではなく、「自分が子どもから学ばせてもらっている」という感覚を大事に子どもたちと接しています。また、活動を通して出会う他大学の学生さんや幅広い年齢層の人たちとの出会いに魅力を感じている方がたくさんいます。(交通費実費支給)



E-mail info@asuiku.org TEL:022-781-5576 HP:<http://asuiku.org/>

2 石巻復興きずな新聞舎

代表: 岩元 暁子

石巻市内の仮設住宅・復興公営住宅向けに無料情報紙「石巻復興きずな新聞」を発行し、ボランティアの手で配布する活動を行っています。情報発信による自立促進、傾聴・見守り活動による心のケア、孤立防止を目指しています。仮設住宅の住民さんのお話を伺いながら新聞をお届けする「配布ボランティア」、取材して記事を書く「記者ボランティア」などを随時募集中。定期的・継続的に関わってくださる方には、交通費補助あり。



E-mail: kasetsukizuna@gmail.com TEL: 090-6686-8317 HP: <http://www.kizuna-shinbun.org/>
Facebook: [kasetsukizuna](https://www.facebook.com/kasetsukizuna) Twitter: [@kizuna_shinbun](https://twitter.com/kizuna_shinbun)

3 特定非営利活動法人 キッズドア

理事長: 渡辺 由美子

仙台近郊の貧困家庭の中高生を対象に無料の学習支援を行っています。学生が主体となってカリキュラムや指導方法を考え、1人1人の生徒に寄り添った指導を日々模索しています。昨年度から英語に特化した学習会や、被災した南三陸への出張学習会も始まり活動の幅が年々広がっています。子どもたちとの関わりは、大学では得ることのできないものをたくさん感じることが出来ます。ボランティア同士はもちろん、ボランティアと生徒もとても仲の良いアットホームな団体です！



E-mail: tohoku@kidsdoor.net TEL:022-354-1157 HP:<http://kidsdoor-fukko.net/>
Twitter:[@kidsdoor_Tohoku](https://twitter.com/kidsdoor_Tohoku) Facebook:<https://www.facebook.com/kidsdoortohoku/>

4 特定非営利活動法人 STORIA

代表: 松井 直美

STORIAでは、経済的困難を抱えた小学生を対象に、「放課後の居場所」活動を週2回実施し、人との関わりや様々な経験を通し、「生き抜く力」の醸成を目指しています。ボランティアの内容は、宿題をみる・一緒にご飯を作って食べる・本気で遊ぶ等です(月1回は、野外活動等のプログラム有)。夜1人でいることが多い子どもたちにとって、学生ボランティアさんはまさに、やさしく頼りになる存在です。研修も行います。活動にご興味のある方は、ぜひご連絡下さい。



E-mail: matsui@storia.or.jp TEL:080-3335-3828 HP:www.storia.or.jp
Facebook: [@storia.japan](https://www.facebook.com/storia.japan)

5 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

代表: 今井 悠介

担当者: 野家 菜希沙(東北福祉大学教育学部3年)

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンは、全国の経済的困難を抱える子どもに、幅広い教育サービスで利用できるクーポンを提供しています。私たち学生スタッフは、クーポンを利用している子どもたちの学習や進路の相談、クーポンの利用に関するアドバイス等を行い、子どもたちが夢を叶えられるように継続的に見守っています。すべての子どもたちが夢に向かって学ぶチャンスが得られるよう、あなたの力を発揮していきましょう！



E-mail: brosis@cfc.or.jp HP:<https://cfc.or.jp/> Twitter: [@bh_cfc](https://twitter.com/bh_cfc) Facebook:<https://www.facebook.com/chanceforchildren/>

6 特定非営利活動法人 TEDIC

代表: 門馬 優

宮城県石巻市で子ども・若者の支援をしている団体です。生活困窮世帯を対象にした「学習支援事業」、不登校や登校しぶりの子どもたちを対象にした不登校支援「ほっとスペース石巻事業」、家から出ることができない子どもたちを対象にした自宅への訪問型支援「アウトリーチ事業」、放課後学び教室や子ども食堂などを行う「学校・地域協働事業」の4つの事業をメイン軸にしなが、石巻市の子ども・若者を支えています。

TEL:0225-25-5286 HP: <https://www.tedic.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/tedic/>



7 特定非営利活動法人 パクト

代表: 水野 朝紀

パクトは東日本大震災を受け、地元の若者や有志により結成された、地元・陸前高田発のNPOです。子どもの居場所づくり活動・『みちくさルーム』では、大学生のボランティアの皆さんと一緒に、子どもたちがのびのび遊びながら、交流や体験の機会を得られるような活動を行っています。子どもが好き、体を動かして遊ぶことが好き、工作が得意、陸前高田に興味がある…そんなあなたのご参加をお待ちしています!

E-mail: child.p@ct311.org TEL:0192-47-4977 HP: pact-rt311.org
Facebook: <https://www.facebook.com/pact311/>



8 NPOピコせんサポーター

代表: 古川 春花(東北福祉大学2年)

私たちは2018年2月開催のこどもがつくるまち「Piccoliせんだい」の運営・企画をしています。こどもの、こどもによる、こどものためのまち「Piccoliせんだい」は今年度で7年目を迎え、毎年試行錯誤を繰り返しながらこどもが遊びを通して学ぶ環境づくりを目指しています。サポーターの世代や職業が様々な小さな団体ですが、その分ひとりひとりの思いを大切に、お互いに助け合いながら挑戦を続けています。ぜひ私たちと一緒に素敵なまちを創りましょう!

E-mail: piccolisendai@gmail.com HP: <http://picosenboshu.wixsite.com/mysite>
Facebook: <https://www.facebook.com/piccolisendai/>



9 ピースボートセンターいしのまき

代表: 山元 崇央

私たちは、7日間からの漁村留学「イマ、ココ プロジェクト。」を軸に石巻市で活動しています。被災地と呼ばれる石巻で、一週間漁師さんのお宅にホームステイ(または漁村の地域施設に宿泊)しながら漁業のお手伝いをするこのプロジェクトは、「支援する側⇄される側」という垣根を乗り越え、個人対個人の深い繋がりを育むことを目的としています。豊かな自然や漁業の厳しさ、浜の人のあたたかさに、ぜひ直接会いに来てください!

E-mail: peaceboat@pbi.or.jp TEL:0225-25-5602 HP: <http://pbi.or.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/ima.coco.project/>



10 一般社団法人 復興応援団

代表: 佐野 哲史

当団は地元の人々が中心となった東北地域の復興を実現することを目的に、地域のファンづくり事業、地域コミュニティサポート事業、防災減災事業の三本柱で活動しています。活動を通して感じる当団の魅力は、ボランティア活動ができることはもちろん、事業の多様性から被災地の復興を様々な視点から見る事ができること。また、代表を始めとして、地域の方々、事業のお客さんなど社会人との接点が多く、大学生活の中では聞けない興味深い話を聞くことができます。

TEL:0226-25-9897 HP: <http://www.fukkou-ouendan.com/>
Twitter: [@fukkououendan](https://twitter.com/fukkououendan) Facebook: [@fukkououendan](https://www.facebook.com/fukkououendan)



11 宮城県青年赤十字奉仕団

代表: 阿部 夏子(経済学部4年)

宮城県青年赤十字奉仕団は、日本赤十字社宮城県支部の指導の下、献血推進活動や高齢者福祉施設・乳児院でのボランティア活動、災害や難民支援のための募金活動等を行っています。主に東北大学や東北福祉大学、宮城学院女子大学の学生が所属しており、交流しながら楽しく活動しています。また、定期的に防災や救護法などの講習会もあり、幅広い知識や経験を身に付けることもできます。様々なボランティアに挑戦してみたい方、ぜひ当団にお問い合わせくださいませ。

E-mail: mygsihu@gmail.com Twitter: [@mygsihu](https://twitter.com/mygsihu) Facebook: "宮城県青年赤十字奉仕団"



12 一般社団法人 ワカツク

代表理事: 渡辺 一馬

東日本大震災を受けて、多くの学生が「自分も何かしたい」と立ち上がりました。ワカツクでは、学生の想いを復興の現場や課題解決に取り組む企業・団体に繋ぎ、サポートしています。活動の現場は、地元企業や学生団体とさまざま。地域の魅力的な企業や社会人を取材・発信する「いくする仙台」や、学生団体の活動や魅力を取材・発信する「東北1000プロジェクト」など、ワカツク独自のプロジェクトもあります。やりたいことが見つからないという方は、ぜひ相談してください!

E-mail: musubaru@wakatsuku.jp TEL:022-721-6180 HP: <http://www.wakatsuku.jp/>
Twitter: [waka2ku](https://twitter.com/waka2ku)



どの団体に参加するか迷ってる…
興味を持った団体の話をもっと聞いてみたい!
そんな時は、

『ボランティアフェア』

ここで紹介されている各団体が一堂に集まります。
ボランティアフェアに参加して、詳しくお話を聞いてみましょう!

詳細は裏面

学生ボランティア支援室 今後のスケジュール

■ ボランティアフェア

日程(会場):

- 4月 6日(木) 16:00~18:30 (川内北キャンパスC105教室)
- 4月 8日(土) 9:00~16:00 (川内北キャンパスC201教室)
- 4月10日(月) 16:00~18:30 (東北大学図書館・多目的室)
- 4月13日(木) 16:00~18:30 (東北大学図書館・多目的室)
- 4月15日(土) 10:00~17:00 (川内北キャンパスC105教室)
- 4月19日(水) 16:00~18:30 (東北大学図書館・多目的室)
- 4月25日(火) 16:00~18:30 (東北大学図書館・多目的室)

学内・学外のボランティア団体や東北大学とかかわりの深いNPO団体が一堂に集まる「ボランティアフェア」。10以上もの団体がブース形式で活動を紹介し、ぜひお話を聞きに来てみてください。予約不要、途中入退室自由です。

■ ボランティア支援学生スタッフ「SCRUM」説明会

日時(会場): 4月14日(金) 16:30~18:00

(川内北キャンパス川内北合同研究棟101教室)

※14日は16:30川内北キャンパス厚生会館前集合

- 4月20日(木) 18:00~19:30 (東北大学図書館・多目的室)
- 4月26日(水) 16:30~18:00 (東北大学図書館・多目的室)

ボランティアツアーやスタディツアーの企画、ボランティアを行おうとする学生・団体の支援を行う「SCRUM(スクラム)」の説明会です。学生スタッフが活動の紹介をし、ボランティアの魅力を伝えます。興味を持った方はぜひお越しください!

■ 東日本大震災語り部講演会「陸前高田市3.11、そしてこれから」

日時(会場): 4月13日(木) 18:30~20:30 (東北大学図書館・グローバル学習室)

講師: 釘子明さん(「陸前高田被災地語り部」くぎこ屋代表)

体験したことのない激しい揺れと、陸前高田市に押し寄せた大津波。その時、どう行動し、どうして犠牲になってしまったのか。講師の体験を踏まえた講義を通して、大切な命を守るために、私たちは何ができるのか、未来に向けて何をなすべきかを考えます。

■ 4月~5月のボランティアツアー等

下記ツアーの参加者を募集します。先着順に〆切ますので、お申し込みはお早めをお願いいたします。

仙台市若林区被災地スタディツアー

4/9(日)

- 9:00川内北キャンパス集合、18:00同所にて解散。
- 仙台市内で甚大な被害をこうむった若林区の被災状況を視察し、地元住民やボランティア団体、復興公営住宅自治会長等から被災状況や復興の課題についてお話をお聞きます。
- 参加費: 無料(食費別)、定員: 20名、募集〆切: 4月7日(金)

福島・富岡スタディツアー

4/23(日)

- 8:00川内北キャンパス集合、18:00同所にて解散(予定)
- 今年4月、福島第一原発事故の影響で全町避難を強いられていた富岡町の帰還が開始されます。この富岡町を現地の方の話を伺いながら視察し、富岡町の現状や町民の方々の思いをお聞きます。
- 参加費: 1,000円(食費別)、定員: 15名、募集〆切: 4月16日(日)

陸前高田ボランティアツアー

4/22(土)~23(日)

- 22日8:00川内北キャンパス集合、23日21:30同所にて解散(予定)
- 初日は陸前高田市で有名な奇跡の1本松をはじめとする震災遺構の視察をして震災当時の様子を地元の方から伺います。2日目は仮設住宅・復興公営住宅での足湯手芸カフェ活動を行います。
- 参加費: 2,000円(食費別)、定員: 15名、申込〆切: 4月19日(水)

仙台市あすと長町ボランティア体験

4/29(土)

- 29日9:00長町駅前集合。14:00同所にて解散。
- 復興公営住宅である「あすと長町市営住宅」でカフェ活動等を通して被災された方々と交流します。初めての方も大歓迎です。活動は10:00~12:00、その後はお昼ご飯を食べながら、ふりかえりのミーティングを行います。
- 参加費: 無料(食費別)、定員10人、募集〆切: 4月26日(水)

石巻市ボランティアツアー

4/29(土)~30(日)

- 29日8:00川内北キャンパス厚生会館前集合、30日18:00同所にて解散(予定)
- 今回のツアーでは、大川小学校の視察や石巻市の復興公営住宅や仮設住宅での足湯カフェを通して傾聴活動を行います。「被災地に足を運んでみたい」「ボランティアに興味がある!(けど、初めてだし不安...)」という方、大歓迎です。
- 参加費: 無料(食費別)、定員: 20人、募集〆切: 4月21日(金)

石巻市のそみ野ボランティア体験

4/30(日)

- 30日8:00川内北キャンパス厚生会館前集合、17:30同所にて解散。
- 午前中に石巻市の被災状況の視察、足湯の講習を行い、午後に石巻市で最大級の復興住宅団地群かつ集団移転先である蛇田地区の「のそみ野」で、足湯とカフェ活動等を通して住民の方々と交流します。はじめての方も大歓迎です!
- 参加費: 無料(食費別)、定員15名、募集〆切: 4月26日(水)

福島県いわき市薄磯 祭りボランティアツアー

5/3(水祝)~4(木祝)

- 3日8:00川内北キャンパス集合、4日19:00同所にて解散(予定)
- 震災以前漁業が盛んで海が綺麗ないわき市の薄磯地区は、震災により津波の大きな被害を受けました。地区内の団地で住民のコミュニティ形成を目的とした住民とのカフェ活動を行う他、神輿を担いで震災による犠牲者の鎮魂と地域の復興を祈りながら歩く、例大祭と呼ばれる祭りのお手伝いをします。
- 参加費: 2,000円(食費別)、定員: 15名、募集〆切: 4月26日(水)

ツアーへのお申込み

右のQRコードから申込用のフォーム(<https://goo.gl/forms/MVZHwjVEsXCzHsWL2>)が読み込めます。

読み込めない方は氏名、参加希望ツアー名を明記しtour.info.tohoku@gmail.comまでメールをお送りください。いずれのツアーも定員に達し次第、〆切に関わらず、募集を終了します。

